

年度 /AY	2024 年度実施
研究科 /Graduate School	教職研究科
課程 /Program	専門職学位課程
専攻・コース等 /Major, Course	実践教育専攻
入試方式 /Admission Method	一般入試方式
試験科目 /Exam Subject	専門科目
実施日（試験日） /Exam Date	2024 年 9 月 8 日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question （試験問題自体を公開しない場合はその理由） (Reasons for not publishing exam questions)	
【一般入試：1―問 1】 <採点時の観点> 次の点について、適切に記述されているかを総合的に判断する。 ・ 学習指導要領「総則」に提示されている、情報モラルを含んだ「情報活用能力」について、本文を参考にしながら正確に理解しているか。 ・ 各教科の学習指導要領や同解説編において触れられている、各教科において育成が望まれる「情報活用能力」について理解をしているか。 ・ 例示する学習内容が、表面的な ICT 機器を操作する能力の育成ではなく、設定する学校種・学年等における各教科の目標や内容に即した「情報活用能力」の育成に効果的で、適切なものとなっているか。 ・ 例示する学習が、具体的で、実践可能な内容・方法となっているか。 <出題意図> 学習指導要領総則において「学習の基盤となる資質・能力」として提示され、GIGA スクール構想が進展する学校において重視されている「情報活用能力」について正確に理解をし、「情報活用能力」を育成する学習を、各教科の学習の中で適切に構想する力を持っているかを試す問題である。学部での教職の学びの中で獲得した教員としての基礎的知識や大きく変化する教育の中で活躍する教員として、新たな教育課題に対応していく力の基礎が身に付いているかを確認するために出題した。 【一般入試：1―問 2】 <採点時の観点> 次の点について、適切に記述されているかを総合的に判断する。 ・ 学習指導要領「総則」や中央教育審議会答申等に提示されている、「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」について、本文の例示を参考にしながら具体的に	

理解しているか。

- ・ 例示された資質・能力について、学校教育のどの場面で育成することが効果的であるかを理解しているか。
- ・ 具体的な学習を想定する場面（教科や総合的な学習の時間など）について、その目標や内容を正確に理解し、目標や内容との関係で、適切な資質・能力を育成する学習を構想できているか。
- ・ 例示する学習が、具体的で、実践可能な内容・方法となっているか。

<出題意図>

学習指導要領「総則」や中央教育審議会答申（2016 年 12 月）等において提示されている「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」について、同答申で例示されている資質・能力が、具体的にどのようなものであるかを正確に理解し、学校教育の適切な場面で、効果的な学習を構想する力を持っているかを試す問題である。学部での教職の学びの中で獲得した教員としての基礎的知識や大きく変化する教育の中で活躍する教員として、新たな教育課題に対応していく力の基礎が身に付いているかを確認するために出題した。

【一般入試：2 一問 1】

<採点時の観点>

以下の 3 つが書けること。

- (1) 児童の権利に関する条約の諸原則と日常の教育活動との接点
- (2) 想定した教育活動の展開に求められる資質・能力
- (3) 組織的な協働や連携の必要性を踏まえた理由

そのうえで、以下の 3 点に言及することを求めるものである。

- ・ 日常の教育活動として、教科指導（授業）や学級経営を想定しつつ、それが生徒指導提要（改訂版）の示す発達支持的生徒指導の場でもあるという認識が必要であること。
- ・ 近年制定された法律等と四つの原則との関連を踏まえ、いじめ防止対策推進法や障害者差別解消法など、教師として遂行すべき法的義務があること。
- ・ 教師のみならず、カウンセラーやソーシャルワーカーなどとの多職種連携・協働に基づくチーム学校（チーム支援）に参画する必要があること。

<出題意図>

生徒指導提要（改訂版）の内容を理解し、大きく変化する教育の中で活躍する教員として、新たな教育課題に対応していく力を身につけようとしているかを問う出題である。特

に、教科指導や生徒指導、学級経営等において、多様な児童生徒のニーズを想定し、組織の中で協働して解決に導ける基本的力量を備えているかを見ようとした。

【一般入試：2 問 2】

＜採点時の観点＞

以下の 4 点に留意して述べられていること。

- ・ メタ認知の要素として、一般的には、メタ認知的知識とメタ認知的活動（モニタリング・コントロール）があり、これらを高めるようなとりくみについて述べられていること。
- ・ 各教科の単元等を例にし、実現可能なとりくみについて具体的に述べられていること。
- ・ 各教科の特性、見方・考え方等に配慮して、述べられていることと。
- ・ 学校種（発達段階）に配慮できていること。

＜出題意図＞

学部での教職の学びを通して、教員としての基礎的知識や指導力をもち、さらに、教員としてより高い指導力、専門性、実践力を身につけたいという高い意欲と熱意をもっているかどうかを試す問題である。学習指導要領においても、資質・能力の柱として「学びに向かう力、人間性等」が挙げられており、その中で「メタ認知」が重視されており、児童生徒の「メタ認知」の力を高めることは、教師にとって重要なとりくみである。

【一般入試：3】

＜解答又は解答例＞

正解については『(小学校・中学校・高等学校) 学習指導要領解説 総則編』、『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～ (中央教育審議会答申)』、『最新教育動向 2024』(教育の未来を研究する会編集、明治図書出版)、『改訂版 教職用語辞典』(橋本美保編集代表、一藝社、2019 年)、ネット等で見ることができるので確認をして欲しい。採点時に分量、内容とも不十分な場合は減点する。

＜出題意図＞

臨床教育分野、教育方法・学習科学分野、国際教育分野において重要である用語、最近話題になっている用語について理解しているかを試す問題である。学部での教職の学びを通して、教員としての基礎的知識として、各コースを選択するにあたり知っておいて欲

しい用語を選んでいる。したがって、受験生の興味関心によって解答しやすいものと、そうでもないものがあると思われる。6つの中から3つを選択する形式であり、解答字数も多くないため、自信のあるものを選び、正確に答えることが求められる。

年度 /AY	2024 年度実施
研究科 /Graduate School	教職研究科
課程 /Program	専門職課程
専攻・コース等 /Major, Course	実践教育専攻
入試方式 /Admission Method	社会人入試方式
試験科目 /Exam Subject	小論文
実施日（試験日） /Exam Date	2024 年 9 月 8 日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question （試験問題自体を公開しない場合はその理由） (Reasons for not publishing exam questions)	
<採点時の観点> 次の点について、適切に記述されているかを総合的に判断する。 ・ 学習指導要領「総則」をはじめ、近年の学校教育において重視されている「教科等横断的な視点に立った資質・能力」について、本文を参考にしながら具体的に理解しているか。 ・ 「教科等横断的な視点に立った資質・能力」の育成に不可欠となる教育課程全体を通して育成する方法について、自身の勤務校の実態を踏まえながら、（主に）勤務校では、どのように育成することが可能であるかを理解しているか。 ・ 自分の担当する教科のみならず、カリキュラム・マネジメントの視点をもって、（主に）勤務校の実践に広く目を配りながら、実践を構想することができているか。 ・ 「教科等横断的な視点に立った資質・能力」の育成や、教育課程全体として取り組む必要がある学習の実践の障壁となっている、（主に）勤務校の組織的な課題を理解しているか。 ・ （主に）勤務校の実態や課題を踏まえ、その課題の克服も念頭に、具体的な取り組みを構想することができるか。 ・ これまでの勤務経験を踏まえながらも、個人的な経験のみに囚われることなく、より一般的な視点（研究成果、他校での実践例など）などから、自身の経験を相対化する視点も加味されているか。 ・ 構想する取り組みが、具体的で、実践可能な内容・方法となっているか。 <出題意図> 近年の学校教育において重視されている「教科等横断的な視点に立った資質・能力」を育成するには、学校全体、教育課程全体での取り組みが必要となる。その意味や意義を理解するとともに、教科横断的な学びに関わる実践を妨げる、勤務校等の課題についても理解した上で、その課題克服する取り組みについて考えていくことが求められている。将来	

のミドルリーダー、スクールリーダーとして活躍することを目指して入学する現職教員として、個々の実践を越え、学年や教育課程全体を俯瞰する視野から問題を捉える力があるのかを試す問題である。大きく変化する教育の中で活躍する教員として、新たな教育課題に対応していく力が身に付いているか、教職経験の中で培った力量を、総合的にさらに高度化し、協働して取り組む新しい学校づくりの中核を担うリーダー教員として必要な知識や資質が身に付いているかを確認するために出題した。

年度 /AY	2024 年度実施
研究科 /Graduate School	教職研究科
課程 /Program	専門職課程
専攻・コース等 /Major, Course	実践教育専攻
入試方式 /Admission Method	一般入試方式
試験科目 /Exam Subject	専門科目
実施日（試験日） /Exam Date	2024 年 11 月 17 日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question （試験問題自体を公開しない場合はその理由） (Reasons for not publishing exam questions)	
【一般入試：1】 <採点時の観点> 1－問 1 下記の点を踏まえた回答がなされていること。 ・ AI を活用した個別学習には具体的にはどのようなものがあるのか。 ・ これまでの教師の役割を踏まえた上で、個別具体の知識を伝える以上に、子どもたちが自ら考えていくことをサポートするファシリテーターとしての役割や、子どもたちと一緒に探究活動を行うジェネレーターとしての役割、人間としてどのように生きていくのかについてともに考えることができる人間形成に重きをおいた教師などについて考察している。 ・ ICT や AI などは教育活動を円滑に進めていく「道具」であるため、教育活動すべてが取って代わられるわけではないということ。具体的には、人間関係をどう築いていくのか、学びへの動機づけ、全人的な教育活動などについて、言及していること。 1－問 2 下記の点を踏まえた回答がなされていること。 ・ 本文中にも個に応じた学びの促進（個別最適な学び）や、自動採点の導入による教師の負担軽減などいくつか例が述べられており、その例を踏まえながらメリットとデメリットの両側面から回答がなされていること。 ・ メリットの例としては、個別最適な学び、学びの機会の均等、教師の教務負担軽減、即時フィードバック、教育データの利活用などが挙げられる。 ・ デメリットとしては、協働的な学びが希薄化する可能性があること、デジタルデバイド（格差）を生み出す可能性があること、教育データの管理の問題、教師の役割の変化、教育予算との兼ね合いなどが挙げられる。	

＜出題意図＞

教育 AI は今後必ず学校教育に取り入れられてくる。その際に、従来の教師の役割や教育活動に固執していると子どもの学びを保障することができず、時代にそぐわない教育活動を展開する恐れがある。間違いなくやってくる AI 時代に対して教師の役割を捉え直す必要があり、教育と学習の価値的な意義を深く理解し、社会に要請される教育的課題に応える高度な専門的知識と実践的指導力の素地があるかを試す問題である。これからの教職には、とりわけ人間力のある教育実践者の養成が求められ、その基本的な資質能力をみるための問いである。

【一般入試：2 問 1】

＜採点時の観点＞

以下の 3 つが書けること。

- (1) 地域との連携・協働の具体的な形が見える企画（構想）内容
- (2) 企画内容と学校及び児童生徒の特徴等との関係
- (3) 期待される効果としての児童生徒が獲得する資質・能力

そのうえで、以下の 3 点に言及することを求めるものである。

- ・ 学習指導要領の前文に示されている、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有するという理念。
- ・ 児童生徒がこれからの社会を創り出していくために身につけることが期待される資質・能力の具体的な内容とその評価方法。
- ・ 地域と連携・協働することが目指すべき学校教育の実現に寄与するというオーセンティックな文脈の必要性。

＜出題意図＞

現行の学習指導要領の内容を理解し、大きく変化する教育の中で活躍する教員として、新たな教育課題に対応していく力を身につけようとしているかを問う出題である。特に、教科指導や生徒指導、学級経営等において、共生社会の実現を目指し、組織の中で協働して解決に導ける基本的力量を備えているかを見ようとした。

【一般入試：2 問 2】

＜採点時の観点＞

以下の 3 つが書けること。

- (1) 各教科等で身に付ける資質・能力
- (2) 学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）
- (3) 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力

そのうえで、以下の 3 点に言及することを求めるものである

- ・ 教科等横断的な視点を持つことで、異なる分野の知識を統合し、創造的かつ柔軟に問題を解決する能力を育成できる。
- ・ それらを教科等横断的な視点で組み立てる際、21 世紀スキルと呼ばれるような、あらゆる学習の基盤となる資質・能力を育んでいることで多様な状況に適応できるようになる
- ・ 次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に照らして必要となる資質・能力は、教科だけで対応できるものではなく、教科等横断的な視点で育んでいくことが求められる。

<出題意図>

学習指導要領「総則」の内容を理解し、大きく変化する教育の中で活躍する教員として、新たな教育課題に対応していく力をもっているかを試す問題である。とりわけカリキュラムマネジメントの視点を持ち、組織の中で協働して課題解決に導ける基本的力量があるかを見ようとした。

【一般入試：3】

<解答又は解答例>

正解については『(小学校・中学校・高等学校) 学習指導要領解説 総則編』、『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～ (中央教育審議会答申)』、『最新教育動向 2024』(教育の未来を研究する会編集、明治図書出版)、『改訂版 教職用語辞典』(橋本美保編集代表、一藝社、2019 年)、ネット等で見ることができるので確認をして欲しい。採点時に分量、内容とも不十分な場合は減点する。

<出題意図>

臨床教育分野、教育方法・学習科学分野、国際教育分野において重要である用語、最近話題になっている用語について理解しているかを試す問題である。学部での教職の学びを通して、教員としての基礎的知識として、各コースを選択するにあたり知っておいて欲しい用語を選んでいる。したがって、受験生の興味関心によって解答しやすいものと、そうでもないものがあると思われる。6 つの中から 3 つを選択する形式であり、解答字数も多くないため、自信のあるものを選び、正確に答えることが求められる。

年度 /AY	2024 年度実施
研究科 /Graduate School	教職研究科
課程 /Program	専門職課程
専攻・コース等 /Major, Course	実践教育専攻
入試方式 /Admission Method	社会人入試方式
試験科目 /Exam Subject	小論文
実施日（試験日） /Exam Date	2024 年 11 月 17 日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question （試験問題自体を公開しない場合はその理由） (Reasons for not publishing exam questions)	
<採点時の観点> 下記の点を踏まえた回答がなされていること。 ・ 自分の勤務校においてどのような取り組みがされたのか ・ その取組の結果、どのような課題が明らかになったのか ・ 課題に対して、どのように改善を行おうとしたのか ・ 以上を踏まえた上で、教師として教育 DX にどのように向き合おうとするのか、回答者なりの考えが示してあること 特に、最後の点については、教育 AI を上手に用いる一方で、AI にはできない教職としての独自性（人間性や価値、倫理、創造性、批判的思考、カウンセリングマインドなど）について述べることを求めた。 <出題意図> 2019 年度に GIGA スクール構想が出され、その後のコロナパンデミックによって学校現場では ICT や教育 AI は大きな広がりを見せたが、実際には学校間における格差が大きい。そこで、本入試問題では自分の勤務校において、また自分の教育実践において具体的にどのような取り組みがなされたのか包括的に見ることで、メタ的に捉え直すことを求めた。またその際に、学校の中でどのような役割を担ったのかについても触れてもらうことを求めた。教職経験の中で培った力量を、総合的にさらに高度化し、協働して取り組む新しい学校づくりの中核を担うリーダー教員を目指す現職教員であるかどうかを見るための問題である。	

年度 /AY	2024 年度実施
研究科 /Graduate School	教職研究科
課程 /Program	専門職学位課程
専攻・コース等 /Major, Course	実践教育専攻
入試方式 /Admission Method	一般入試方式
試験科目 /Exam Subject	専門科目
実施日（試験日） /Exam Date	2025 年 2 月 2 日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question （試験問題自体を公開しない場合はその理由） (Reasons for not publishing exam questions)	
【一般入試：1】 <採点時の観点> 以下の 2 点に言及することを求めるものとした。 (1) マイノリティに対して差別が生まれる構造 (2) 性的マイノリティの児童生徒に対する学校における配慮の具体例 <出題意図> 共生社会の形成に向けて、多様な児童生徒の社会的背景と心理を理解しようとする姿勢があるかを試す問題である。そのために性的マイノリティを一例として取り上げた。生徒指導提要の第 12 章を理解し、学校生活の経験と結びつけて検討できるかどうかを見ようとした。 【一般入試：2 一問 1】 <採点時の観点> 次のような「部活動の地域移行」のメリットとデメリットの中から、いくつかに触れながら、両者について、適切に記述されているかを判断する。 （メリット） ・ 教師の働き方改革への寄与 ・ 教師の業務や週末出勤の軽減 ・ 児童生徒は、各種目の専門的な指導を受けることができる ・ 自校にはない部活を選択することができる （デメリット） ・ 適切な指導者の継続的な確保 ・ 指導者の身分のあり方	

- ・ 指導者確保や地域スポーツクラブ数などにおける地域間格差
- ・ 保護者の経済的負担が増える
- ・ 心理的な側面も含めた児童生徒の安全の確保
- ・ 学校と指導者の間での連携をめぐる課題

<出題意図>

教員の働き改革や業務軽減との関係で、近年取り組みが進んでいる「部活動の地域移行」について、教師、児童生徒、保護者、学校などの多様な視点から、メリット、デメリットを理解することができているかを確認する問題である。学部での教職の学びの中で獲得した教員としての基礎的知識や大きく変化する教育の中で活躍する教員として、新たな教育課題に対応していく力の基礎が身に付いているかを確認するために出題した。

【一般入試：2 一問 2】

<採点時の観点>

以下の 5 点に留意して述べられていること。

- ・ 「真正の学び」について、実生活や実社会、あるいは学問的世界等と結びついた学びであること、学習者にとって学ぶことの意義が深い学びであること、等について述べられていること。
- ・ 「真正の学び」の説明と、具体例が合致していること。
- ・ 各教科の単元等を例にし、実現可能なとりくみ、評価法等について具体的に述べられていること。
- ・ 各教科の特性、見方・考え方等に配慮して、述べられていること。
- ・ 学校種（発達段階）に配慮できていること。

<出題意図>

学部での教職の学びを通して、教員としての基礎的知識や指導力をもち、さらに、教員としてより高い指導力、専門性、実践力を身につけたいという高い意欲と熱意をもっているかどうかを試す問題である。学習指導要領においても、実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能が重視されるなど、「真正の学び」が重視されている。

【一般入試：3】

<解答又は解答例>

正解については『（小学校・中学校・高等学校）学習指導要領解説 総則編』、『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最

適な学びと、協働的な学びの実現～（中央教育審議会答申）』、『最新教育動向 2024』（教育の未来を研究する会編集、明治図書出版）、『改訂版 教職用語辞典』（橋本美保編集代表、一藝社、2019 年）、ネット等で見ることができるので確認をして欲しい。採点時に分量、内容とも不十分な場合は減点する。

<出題意図>

臨床教育分野、教育方法・学習科学分野、国際教育分野において重要である用語、最近話題になっている用語について理解しているかを試す問題である。学部での教職の学びを通して、教員としての基礎的知識として、各コースを選択するにあたり知っておいて欲しい用語を選んでいる。したがって、受験生の興味関心によって解答しやすいものと、そうでもないものがあると思われる。6 つの中から 3 つを選択する形式であり、解答字数も多くないため、自信のあるものを選び、正確に答えることが求められる。

年度 /AY	2024 年度実施
研究科 /Graduate School	教職研究科
課程 /Program	専門職課程
専攻・コース等 /Major, Course	実践教育専攻
入試方式 /Admission Method	社会人入試方式
試験科目 /Exam Subject	小論文
実施日（試験日） /Exam Date	2025 年 2 月 2 日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question （試験問題自体を公開しない場合はその理由） (Reasons for not publishing exam questions)	
<採点時の観点> 以下の 3 点に言及することを求めるものとした。 (1) 性的マイノリティの児童生徒を取り巻く状況と課題の理解 (2) 差別を生まない学級づくりには人権意識が重要であること (3) 人権意識を育てる具体的な教育実践例 <出題意図> 共生社会の形成に向けて、多様な児童生徒の社会的背景と心理を理解しているかを試す問題である。そのために性的マイノリティを一例として取り上げた。マジョリティとマイノリティの関係性において、教師が自分の在り方を見つめ直す省察力があるか、差別をなくすための教育実践への創造力があるかどうかを見ようとした。	